

事業名		代表者所属	呉工業高等専門学校
15KJ-011		代表者	協働研究センター長 山脇 正雄
地域発・課題探求型授業「インキュベーションワーク」と連携したサイエンスショーと科学・工作教室		開催地	呉市
		助成金額	15万円
活動概要			
<p>日時 12月13日(日) 10:00～15:00</p> <p>場所 呉工業高等専門学校 図書館棟、普通教室棟他</p> <p>対象 小学生以上</p> <p>参加者(人) 647名</p> <p style="padding-left: 40px;">内訳(保護者;247人)(生徒;400人)</p> <p>内容 科学の面白さやものづくりの楽しさを体験できる「サイエンスショー」の実施。計画の2倍の30のブース(内 企業ブース6)を出展した。</p>			



図1: からくり折り紙写真を作ろう!



図2: 大人気のラジオ作り! 整理券もすぐ完売



図3: 天までとどけ! スーパーボール



図4: デザコン出品作品「フライングプレーン」の実演

事業の目的・ねらい

本事業(第3回びっくりワクワククリスマスサイエンスショー)は、科学の楽しさとものづくりの醍醐味を実体験してもらいイベントである。このイベントの目的は次の2点である。

- ・小中学生が科学の楽しさとものづくりの醍醐味を実体験し、夢や創造性を育む機会を提供する。
- ・科学者・技術者の卵である学生と交流することで、科学者・技術者の職としての魅力も感じてもらう。

事業の概要

本事業は、平成27年12月13日(日)に本校の5つの会場(普通教室棟、環境都市工学科棟、第2普通教室棟、図書館棟、第1体育館)で実施した。本校が工学系高等教育機関である特徴を活かし、自然科学・人文社会、機械、電気、環境、建築といった広い分野の実験・工作が体験できるように、各学科から担当教員を数名ずつ選出した。さらに、教員主体のブースだけではなく、今年度から開設した課題探求型授業「インキュベーションワーク」を通じて、本校の学生が主体的に発案した実験・工作コーナーも設けた。結果として、企業ブース6種類を含めて、合計30種類のブースを出展した(内5件:インキュベーション授業)。昨年度は台風の接近により中止となったため、この規模のイベントは本校としては初めての試みである。

広報は本校ホームページへの掲載を初め、呉市内には「呉市政だより」や大和ミュージアム館内の掲示物を通じて、また県内の小中学校校や広島市内の文化施設、近隣の幼稚園・保育園には、チラシを配布して周知を徹底した。その結果、来場者数は予想を上回る647名であった。来場者の内訳は、約60%が園児・小学生、約30%が同伴の保護者、残りが中高生と50~60歳代の年配の方となっており、幅広い年齢層の方に参加していただいた。また、約7割が呉市からの来場者であったが、広島市近郊からも合わせて100名ほどの方に参加があった。

実施体制は、イベント運営の教員5名・職員5名で企業対応、誘導・案内、駐車場整理等を分担し、教員10名・学生140名で出展ブースの運営を行った。来場者用の休憩所2か所、および授乳室やおむつ交換の場所も設けた。

イベントを盛り上げる工夫として、実験・モノづくりに参加して、スタンプを集めるスタンプラリーを実施し、数多くのブースを体験した方には、本事業の目的に賛同して頂いた協賛・協力企業から提供して頂いた景品を渡した。イベントの評価は、アンケート調査により行った。

結果及び効果

当初予定した500名を超える約650名の方が、県内の幅広い地域から参加したことは、本イベントへの期待・需要が高いことを示すものである。チラシや本校のHPを見て来場した方が6割を占めており、今後もチラシの配布方法やHPの充実に力を入れることが重要である。また、アンケート調査によると、97%の方が満足したと回答しており、多くの参加者の方に科学の楽しさとものづくりの醍醐味を感じてもらえたようである。支援学生にとっても、このイベントへの参加は科学・モノづくりの楽しさを再認識する場になったようであり、学生の意識を高める効果の1つとして期待される。加えて、「本校の学生と楽しく工作・実験ができて楽しかった」、「本校の学生が丁寧に説明してくれて良かった」、「将来、子どもを入学させたい」など、学生や本校への評価が高かったことは、特筆すべき点で、本事業は本校で行っている教育・研究を呉市だけでなく、県全体にアピールする良い機会になった。ただ、今回は予想を上回る来場者数だったため、長い待ち行列ができたブースや材料が早々と無くなり体験できなかったブースがあった。この点は次回以降の課題である。